

教 科 内 容

3 年 生

科目名	衛生行政・社会福祉			授業担当者	儀間 裕		
開講時期	3年 前期			単位・時間数	2単位30時間(内18時間担当)		
授業方法	講義	18	演習	実験・実習・実技			
授業場所	校内	校外		教員	兼任	専任	
<p>《学習目標》</p> <p>衛生行政全般に関する基本事項、「歯科衛生士法」「歯科医師法」等歯科衛生士の業務に係る関係法を理解する。保健医療に関する統計調査とその動向について理解する。</p>							
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生行政の沿革、組織(機構)および歯科保健行政の沿革、事業について理解する。 ・地方自治体(保健所、市町村保健相談センター等)の役割について理解する。 ・歯科衛生士に必要な歯科医療に係る法令や規則について理解する。 ・保健関係統計調査の概要を知り歯科医療の現状と動向について理解する。 							
《授業計画》						授業方法	
回	授 業 内 容				講義	演習	実験 実習 実技
1	衛生行政の意義(目的)、沿革、医療制度および歯科衛生行政の沿革				○		
2	衛生行政の組織、地方自治体、保健所、市町村保健相談センター等の役割				○		
3	衛生関係法の意義、衛生行政に係る法規の分類と機能				○		
4	歯科衛生士法、歯科医師法等、歯科衛生士の業務に係る法規				○		
5	厚生関係統計調査のあらましと主な保健関係統計調査と近年の動向				○		
6	歯科保健関係の統計調査と近年の動向				○		
7	国民の健康および受療状況、人口動態に係る統計調査				○		
8	超高齢社会における歯科保健の将来展望と歯科衛生士の役割				○		
9	まとめ				○		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う 出席状況、授業態度などを総括的評価に加味する</p>							
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>「歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険」(医歯薬出版) 「歯科衛生士と法律・制度」(医歯薬出版)</p>							
<p>《実務経験》</p> <p>平成17年4月より現在まで沖縄県保健医療部国民健康保険課にて指導監査専門医として勤務しているので、歯科保健行政に関する十分な知見を有しており講義に支障ありません。</p>							

科目名	衛生行政・社会福祉			授業担当者	嘉手納 一彦	
開講時期	3年 前期			単位・時間数	2単位30時間(内12時間担当)	
授業方法	講義	12	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校 内		校 外	教 員	兼 任	専 任
<p>《学習目標》</p> <p>我が国における社会保障制度を理解し、社会福祉・社会保険の仕組みと運用を理解する。 また、それに関連する法規を学習し習得する。</p>						
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度について理解する 2. 医療保険制度、年金制度、雇用保険・労働者災害補償保険制度、介護保険制度について理解する 3. 社会福祉制度を理解する 						
《授業計画》					授業方法	
回	授 業 内 容			講 義	演 習	実 験 実 習 実 技
1	社会保障制度について			○		
2	医療保健制度について			○		
3	年金制度、雇用保険・労働者災害補償保険制度について			○		
4	介護保険制度について			○		
5	生活保護制度、児童福祉制度について			○		
6	障害者福祉制度、高齢者福祉制度について			○		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で評価を行なう 出席状況、授業態度などを加味する</p>						
<p>《教科書・参考文献》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律」(医歯薬出版) ・「公衆衛生がみえる2018～2019」(メディックメディア) 						
<p>《実務経験》</p> <p>昭和63年歯科医師免許取得し、日本大学歯学部付属歯科病院にて補綴学を学び、 琉球大学医学部附属病院及び那覇市立病院にて歯科口腔外科に従事。平成7年に歯科医院開設。 平成25年より那覇市保健所健康増進課に勤務し公衆衛生及び健康づくり、歯科保健等に従事中。 今までの経験をもとに「衛生行政・社会福祉」の講義を行なう。</p>						

科目名	口腔保健管理			授業担当者	伊藝 律紀		
開講時期	3年 前期・後期			単位・時間数	2単位 36時間(内24時間担当)		
授業方法	講義		演習	12	実験・実習・実技	12	
授業場所	校内		校外		教員	兼任	専任
<p>《学習目標》</p> <p>1 口腔疾患を予防するための基礎的知識と健康教育の意義についての理解を高める</p> <p>2 ライフステージごとの口腔保健管理の理論とその実地方法の修得</p> <p>3 1及び2の実現のための臨床手技の修得</p>							
<p>《到達目標》</p> <p>1 プロフェッショナルケアにおける操作テクニックができる</p> <p>2 口腔保健管理について理解し、継続管理計画を組み立てる事が出来る</p> <p>3 ライフステージ別の口腔内状況を理解し、個人に適したブラッシング方法を指導出来る</p> <p>4 業務記録の必要性を説明出来る</p> <p>5 歯科衛生士の指導過程が説明出来る</p> <p>6 業務記録の形式を説明出来る</p> <p>7 臨床の場、訪問の場の業務記録を説明出来る</p> <p>8 患者の情報を収集して問題点を抽出し、指導計画を立て、それに基づいた指導処置を記録し、評価するという流れを理解しながら演習できる</p>							
《授業計画》						授業方法	
回	授 業 内 容				講義	演習	実験・実習・実技
1 6	口腔観察と口腔清掃 プロフェッショナルケア						○
7 12	業務記録 口腔保健管理の演習					○	
<p>《評価方法》</p> <p>出席状況、受講態度、試験成績、課題提出状況等を参考にして総合的に判断</p>							
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本</p>							
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として一般診療所、歯科口腔外科に勤務。</p> <p>一般診療所では歯科衛生士業務全般担当し、歯科口腔外科では主に入院患者の口腔ケアを担当。</p> <p>これまでの実務経験をもとに講義を行います。</p>							

科目名	歯科保健指導			授業担当者	志喜屋 やよい		
開講時期	3年 前期			単位・時間数	1単位 30時間		
授業方法	講義	12	演習	実験・実習・実技	18		
授業場所	校 内		校 外	教 員	兼 任	専 任	
<p>《学習目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの基本となる知識・技術・態度を習得する 対象となる集団または個人に応じた歯科衛生教育活動の場を把握し、必要な知識技術・態度を習得する ライフステージと機能障害に応じた生活指導に必要な知識、技術・態度を習得する 							
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる 高齢者の口腔のケア時の留意点について説明できる 高齢者の口腔のケアに使用する器材について説明できる 高齢者に多く見られる全身疾患・状態別の口腔衛生管理の方法と留意点について理解する 要介護高齢者への口腔機能・口腔内の特徴を説明できる チーム医療の概念について理解できる 摂食・嚥下リハビリテーションの訓練的対応について説明できる 地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を説明し、実施できる 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる 							
《授業計画》					授業方法		
回	授 業 内 容				講 義	演 習	実 験 実 習 実 技
1. 5 6.	ライフステージにおける歯科衛生介入《6コマ》 老年期、要介護高齢者、障害者、成人期、幼児期				○		△
7. 8 9.	要介護高齢者への口腔ケア《3コマ》 臨床現場における歯科衛生士の役割 口腔ケア(義歯ケア含)の実際						○
10 11	高齢者の状態の把握《2コマ》 高齢者の生活機能評価				○		
12. 13 15.	地域歯科保健活動 臨地実習《4コマ》 地域歯科保健活動における健康教育の実践						○
<p>《評価方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(1回)により判定する 試験は100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う 							
<p>《教科書・参考文献》</p> <ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯科衛生士のための 摂食・嚥下リハビリテーション」(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版(医歯薬出版) 周術期口腔機能管理の基本がわかる本(クインテッセンス出版) オーラルヘルスケア事典(学建書院) 口腔保健実践ガイドブック 第2版 (学建書院) その他参考資料を適宜紹介 							
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として歯科医院に勤務。主に歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を担当。 歯科医院での経験をもとに歯科保健指導の講義を行います。</p>							

科目名	医療保険実務			授業担当者	上田 隆一郎		
開講時期	3年 前期			単位・時間数	2単位 30時間		
授業方法	講義	26	演習	2	実験・実習・実技	2	
授業場所	○ 校内		校外		教員	○ 兼任	
≪学習目標≫ 保険診療のルールの基本的な知識の理解							
≪到達目標≫ 保険ルールの理解。保険用語の理解。 歯科衛生実地指導の理解。 レセプトの理解。コンピュータの取扱についての理解。							
≪授業計画≫						授業方法	
回	授 業 内 容				講 義	演 習	実 験 実 習 実 技
1	授業内容の説明				○		
2	初診・再初診・再診				○		
3	医学管理・豆テスト				○		
4	在宅診療・豆テスト				○		
5	介護保険・豆テスト				○		
6	検査・投薬・麻酔・豆テスト				○		
7	画像診断・豆テスト				○		
8	歯科衛生実地指導実習						○
9	処置・豆テスト				○		
10	レセコンの取り扱い実習					○	
11	手術・豆テスト				○		
12	歯周疾患・豆テスト				○		
13	歯冠修復・豆テスト				○		
14	有床義歯・豆テスト				○		
15	豆テスト・まとめ				○		
≪評価方法≫ 期末試験							
≪教科書・参考文献≫ 歯科保険診療の研究、歯科点数表の解釈。							
≪実務経験≫ 歯科医師会保険委員、理事として20年間会員への医療保険指導を行っています。							

科目名	臨地・臨床実習			実習担当者	実習指導者・指導教員		
開講時期	3年 前期・後期			単位・時間数	13単位 585時間		
実習方法	講義		演習	実験・実習・実技	585		
実習場所	校内	校外		教員	兼任	専任	
<<学習目標>> 歯科衛生士業務を習得するために歯科診療の場及び地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。							
<<到達目標>> *臨床実習 ・歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる ・歯科衛生のサービスを行うにあたって、その必要性を化学的に説明できる ・資料やデータから歯科衛生業務の内容を判断し、内容に応じた行動ができる ・対象者に応じた保健管理指導ができる ・スタッフ(多職種を含む)と連携して共同動作、必要なサービスができる ・業務記録の記述ができる *臨地実習 ・プライバシーを配慮した態度で対応できる ・対象者の守秘義務を遵守できる ・安全管理に配慮した行動ができる ・感染予防(消毒・滅菌、手指消毒)対策に応じた行動ができる ・対象者の要求や相談内容を判断し、内容に応じた対応ができる ・指導者からの指示内容を理解した行動ができる ・スタッフ(多職種)と連携して必要なサービスができる ・対象者に応じた保健管理指導ができる ・集団を対象に歯科衛生教育活動が実践できる ・現場に応じた業務記録の記述ができる ・カンファレンスの必要性を理解した発言ができる							
実習スケジュール					実習方法		
	内 容				講義	演習	実験 実習 実技
1	歯科診療所実習						○
2	病院実習(口腔外科)						○
3	口腔保健医療センター						○
4	障害者施設						○
5	高齢者施設						○
6	市町村保健相談センター						○
<<評価方法>> 臨床実習評価表、出席状況、課題提出により評価する							
<<教科書・参考文献>> 「歯科衛生士のための最新歯科用語辞典 ポケット版」(クインテッセンス出版) 歯科衛生士教育サブテキスト「臨床実習HAND BOOK」(クインテッセンス出版)							

科目名	総合歯科学			授業担当者	平良 恵信	
開講時期	3年 後期			単位・時間数	4単位 120時間	
授業方法	講義	120	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

1年～3年までに学んだ歯科医学に関する専門基礎分野、専門分野の知識の整理・まとめを行い
国家試験対策を行う。

《到達目標》

- 1.専門基礎分野について理解できる
- 2.専門分野について理解できる

《授業計画》

科目	授 業 内 容	授 業 方 法			科目	授 業 内 容	授 業 方 法		
		講義	演習	実験実習実技			講義	演習	実験実習実技
1	解剖学まとめ(年度担当講師)	○			21	小児歯科学まとめ(年度担当講師)	○		
2	組織発生学まとめ(〃)	○			22	障害者歯科学まとめ(〃)	○		
3	生理学まとめ(〃)	○			23	高齢者歯科学まとめ(〃)	○		
4	生化学まとめ(〃)	○			24	歯科放射線学まとめ(〃)	○		
5	口腔解剖学まとめ(〃)	○			25	歯科予防処置まとめ(〃)	○		
6	口腔生理学まとめ(〃)	○			26	口腔保健管理まとめ(〃)	○		
7	病理学まとめ(〃)	○			27	歯科保健指導まとめ(〃)	○		
8	薬理学まとめ(〃)	○			28	栄養指導まとめ(〃)	○		
9	微生物学まとめ(〃)	○			29	歯科診療補助まとめ(〃)	○		
10	口腔衛生学まとめ(〃)	○			30	感染予防学まとめ(〃)	○		
11	歯科保健統計まとめ(〃)	○			31	臨床検査まとめ(〃)	○		
12	衛生・公衆衛生学まとめ(〃)	○			32	摂食機能訓練法まとめ(〃)	○		
13	歯科衛生士概論まとめ(〃)	○			33	歯科器械・材料学まとめ(〃)	○		
14	歯科臨床概論まとめ(〃)	○			34	看護概論・介護技術法まとめ(〃)	○		
15	歯科保存学まとめ(〃)	○			35	隣接医学・救急蘇生法まとめ(〃)	○		
16	歯内療法まとめ(〃)	○							
17	歯周療法まとめ(〃)	○							
18	歯科補綴学まとめ(〃)	○							
19	歯科矯正学まとめ(〃)	○							
20	口腔外科・歯科麻酔学まとめ(〃)	○							

《評価方法》

国家試験形式で出題
試験は220点満点とし、132点に満たない場合は再試験を行う

《教科書・参考文献》

専門基礎、専門科目にて使用している教科書
歯科衛生士国家試験問題集(医歯薬出版)
その他補助テキストおよび模擬試験問題

《実務経験》

歯科医師として診療に従事
副校長として学校運営に携わり、統括して科目のまとめを行う